

横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年3月）

《今月のトピックス》

- 麻しんの報告が続いています。
- 百日咳の報告が依然として続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く発生し、10歳代の報告もみられます。引き続き注意が必要です。
- 感染性胃腸炎の報告数が増加しています。

◇ 全数把握の対象 <2025年2月24日～3月23日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	5件	水痘(入院例に限る)	3件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	32件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	百日咳	36件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件	麻しん	5件

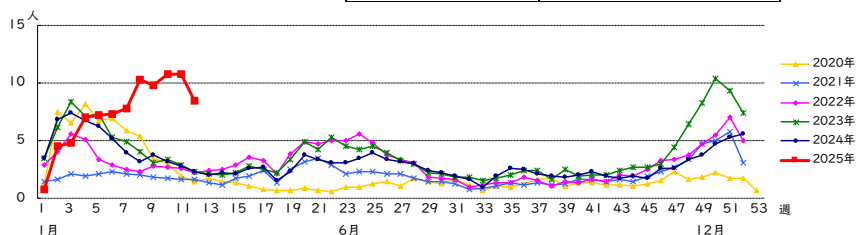
1. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代及び70歳代で、O血清群はいずれも不明です。感染経路等も不明です。
2. **E型肝炎**:いずれも50歳代で、経口感染と推定されています。
3. **レジオネラ症**:70歳代～80歳代で、肺炎型が3件、ポンティアック熱型が2件です。水系感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が1件です。
4. **アメーバ赤痢**:30歳代～50歳代で、いずれも腸管アメーバ症です。感染経路は、性的接触と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件です。
5. **ウイルス性肝炎**:40歳代で、B型肝炎(ワクチン接種歴不明)です。感染経路等は不明です。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:80歳代～90歳代で、以前からの保菌または医療器具関連感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
7. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:20歳代～80歳代で、血清型はA群が2件、G群が2件です。飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
8. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:いずれも30歳代で、感染経路は性的接触(同性間)と推定されています。
9. **侵襲性肺炎球菌感染症**:30歳代～90歳代(ワクチン接種歴無1件、不明6件)で、飛沫・飛沫核感染または接触感染と推定される報告が1件、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件です。
10. **水痘(入院例に限る)**:30歳代～90歳代(ワクチン接種歴無1件、不明2件)で、院内感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件です。
11. **梅毒**:10歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期14件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件、無症状病原体保有者12件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間22件、同性間2件、詳細不明3件)、感染経路等不明が5件です。
12. **播種性クリプトコックス症**:50歳代で、感染経路等不明です。
13. **百日咳**:10歳未満～50歳代(ワクチン接種歴5回2件、4回22件、1回1件、無1件、不明10件)で、家族内感染と推定される報告が10件、周囲の流行と推定される報告が6件、感染経路等不明の報告が20件です。
14. **麻しん**:20歳代～40歳代(ワクチン接種歴無2件、不明3件)で、海外での感染が3件(タイ2件、ベトナム1件)、国内での感染が2件です。飛沫・飛沫核感染と推定される報告が3件、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が1件です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2025年第 9週	2月24日～3月 2日
第10週	3月 3日～3月 9日
第11週	3月10日～3月16日
第12週	3月17日～3月23日

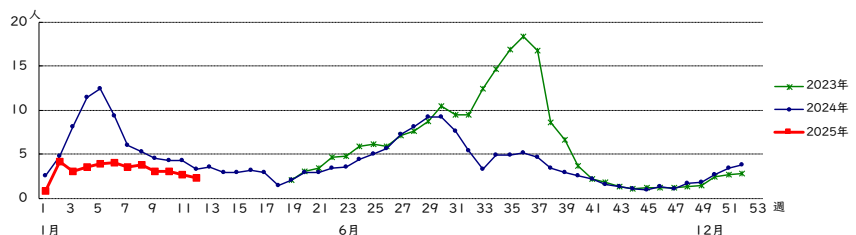
1 感染性胃腸炎

2025 年第 2 週(1 月 6 日～1 月 12 日)以降増加し、例年の同時期よりも高い値で推移しています。第 12 週は 8.41 です。



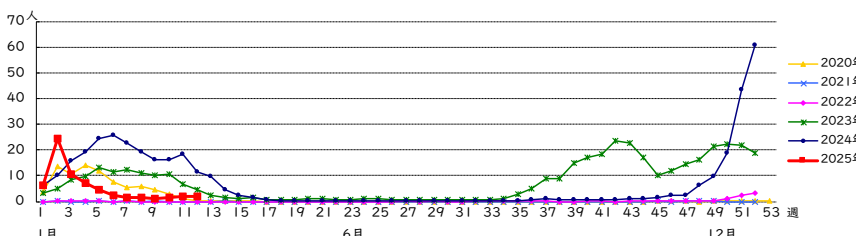
2 新型コロナウイルス感染症

2025 年の第 3 週目以降、概ね横ばいの状態が続いています。第 12 週は 2.26 です。



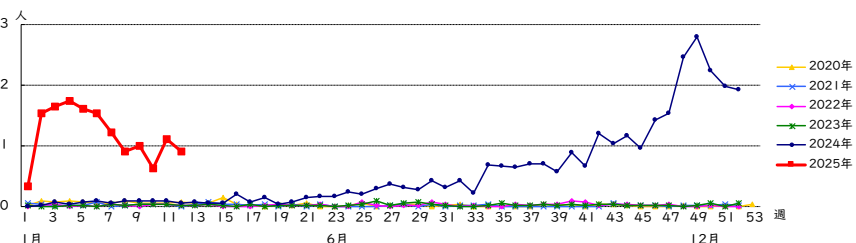
3 インフルエンザ

2024 年第 51 週(12 月 16 日～12 月 22 日)に流行警報の発令基準(30.00)を上回り、第 52 週は 60.52 と急増しました。2025 年第 3 週以降、減少傾向が続き、第 4 週に終息基準値(10.00)を下回りました。第 12 週は 1.86 です。



4 伝染性紅斑

2024 年第 48 週に流行警報発令基準値(2.00)を上回り、第 49 週(12 月 2 日～12 月 9 日)にピークを迎えました。2025 年第 5 週以降減少傾向に転じ、第 12 週は 0.90 で終息基準値(1.00)を下回りました。



5 性感染症(2025 年 2 月)

性器クラミジア感染症	男性:38件	女性:10件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性: 3件	女性: 5件	淋菌感染症	男性:15件	女性: 2件

6 基幹定点週報

	第9週	第10週	第11週	第12週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.50	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.25	0.25	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.75	0.50	1.00	0.00

7 基幹定点月報(2025年2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8 か所、インフルエンザ(内科)定点:4 か所、眼科定点:1 か所、基幹(病院)定点:4 か所の計 17 か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ(内科)定点では定期的に行っており、小児科定点は 8 か所を 2 グループに分けて毎週 1 グループで実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

2025 年第 9 週～第 12 週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点 34 件、内科定点 10 件、基幹定点 1 件でした。

4 月 9 日現在、表に示した各種ウイルスの分離 7 株と遺伝子 26 件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025 年第 9 週～第 12 週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	イン フル エン ザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	胃 腸 炎	発 疹
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	3 1		1 -		
インフルエンザウイルス B型(ビクトリア系統)	2 -				
アデノウイルス 2型		1 -			
アデノウイルス 型未同定					- 1
ヒトコロナウイルス OC43型		- 1			- 1
ヒトコロナウイルス NL63型		- 3			
ヒトメタニューモウイルス		- 3	- 3		
RSウイルス		- 2	- 3		
パラインフルエンザウイルス 3型		- 1			
ライノウイルス		- 3			
ノロウイルス G2				- 1	
A群 ロタウイルス				- 1	
エンテロウイルス				- 1	
水痘・帯状疱疹ウイルス					- 1
合 計	5 1	1 13	1 6	- 3	- 3

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2025 年第 9 週～第 12 週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、細菌性赤痢 1 件、腸管出血性大腸菌感染症 1 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 5 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 5 件、薬剤耐性アシネトバクター感染症 3 件、急性胃腸炎 1 件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症の喀痰 1 件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は溶血性レンサ球菌感染症 3 件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025 年第 9 週～第 12 週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
保健所		細菌性赤痢	1	<i>Shigella sonnei</i> (1)	
		腸管出血性大腸菌感染症	1	O157 : H7 VT2 (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (2) A群溶血性レンサ球菌 T1型 (1) G群溶血性レンサ球菌 (2)	
		薬剤耐性アシネトバクター感染症	3	<i>Acinetobacter baumannii</i> (3)	
		急性胃腸炎	1	<i>Streptococcus aureus</i> PVL+ (1)	
分離同定		項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所		レジオネラ症	1	喀痰	<i>Legionella pneumophila</i> SG6 (1)
小児サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌感染症	3	A群溶血性レンサ球菌 T4 (2) A群溶血性レンサ球菌 TB3264 (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】